

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 10 日現在

機関番号：17702

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2012

課題番号：20520505

研究課題名 (和文) 音楽を使った英語教育及び異文化コミュニケーション教育

研究課題名 (英文) Teaching English and Cross-cultural Communication through Music

研究代表者

宮下 和子 (MIYASHITA KAZUKO)

鹿屋体育大学・外国語教育センター・教授

研究者番号：20182016

研究分野：英語教育、アメリカ研究、日米の異文化コミュニケーション

科研費の分科・細目：言語学、外国語教育

キーワード：英語教育、アメリカ音楽、フォスター、日米文化交流、異文化コミュニケーション教育

1. 研究計画の概要

- (1) アメリカ史と連動するアメリカ音楽の意義を考察し、英語学習で欠かせない異文化理解の一助とするとともに、日本人のアメリカ理解と日米の異文化コミュニケーション教育の促進をはかる。
- (2) 上記を具体的に進める上で、フォスターをはじめとするアメリカ史を反映する音楽からなるテキストを開発し、英語教育や異文化理解等の教育現場で活用する。
- (3) 上記の活動を社会貢献にも拡大する。

2. 研究の進捗状況

(1) 研究に関しては、英語教育学会やコミュニケーション学会等での研究発表を行ってきた。また、放送大学における一般聴衆対象の特別講義でも講演してきた。特に平成 22 年度は、異分野の学会 (哲学会) や九州フルブライト同窓会での招待講演でも講演を行った。

また、2010 年 4 月 22-23 日、米国ピッツバーグ大学で開催された初めての「スティーブン・フォスターシンポジウム」には、海外から報告書一人のみ招聘され、日本におけるフォスター像と日米の異文化コミュニケーションにおけるその意義について講演した。さらに、毎年、自主教材の開発と更新に努めており、教育現場で活用している。同時にその成果についても学会発表してきた。特に平成 22 年度には、新自主製作図書『音楽で異文化コミュニケーション 2～歌い継ぐアメリカ』の開発に努め、2011 年 3 月の米国での学会での成果も含めて編纂した。

(2) 教育活動に関しては、(1) に述べた自主製作図書を、所属大学で正副教材として活用

するだけでなく、放送大学におけるセミナー等、社会活動にも導入し、日米の異文化コミュニケーション教育に努めている。

さらに、教師免許更新講座その他の機会を用いて、小学校や中学、高校の英語教師にも教材の提供と共に、研究成果を還元している。具体例として、埼玉県和光市立和光小学校は 2009 年 4 月、国内初のカテゴリー「音楽及び英語教師」を設けた。採用された立石加奈子氏は、大阪教育大学在学中の 2002 年 4 月、報告者にフォスターに関する卒業論文の指導を依頼してきた。以来、意見交換を継続しているが、2010 年のフォスターシンポジウムでのプレゼンでも、同氏のコメントも引用し、日本の音楽教育の現状も紹介した。また、伊豆市在住でフォスター歌を持ち歌にしているミュージシャン對中淳一氏は、インターネットで報告者のフォスター論文にヒットし、2007 年、報告者にコンタクトしてきた一人で、フォスターを歌い続けることの意義について意見交換を継続している。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) 研究テーマに沿った内容の研究発表が、英語教育学会やコミュニケーション学会等において好意的に受け入れられている。教育活動に活用する教材の開発も継続しており、教育現場でも好評である。アーティストによるレクチャーコンサートが実施できていないことに力不足を感じている。

4. 今後の研究の推進方策

(1) アメリカ音楽のヒューマニティにも焦点

をあて、語学教育現場へのヒューマンティの導入という観点でも研究を推進する。

(2)日本人がアメリカ音楽を解釈する「異文化翻訳」というプロセスについても研究を更新する。

(3)新教材『音楽で異文化コミュニケーション3～歌うアメリカ魂 [仮称]』を開発する。

(4)フォスター歌曲 CD アルバムを日英両言語による CD ブックとして編纂する。

(5)フォスター歌曲のレクチャーコンサートを実施したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① Kazuko Miyashita, America as Understood through Foster's Songs in Foreign Cultures～Foster's Music as Japanese Cultural Heritage、研究報告『言語と文化』8巻、1-13、2011、査読有り。
- ② 宮下和子「♪YES WE CAN♪が歌い継ぐ歴史コミュニケーション」『九州コミュニケーション研究』第8号、10-20、2010、査読有り。
<http://www.caj.1971.com/kyushu/>

[学会発表] (計10件)

- ①宮下和子「♪YES WE CAN♪を紡ぐスポークン・ワード～英語教育とヒューマンティ」大学英語教育学会(JACET)九州・沖縄支部第27回大会、2010年7月3日、西南学院大学(福岡市)
- ② 宮下和子「♪YES WE CAN♪が歌い継ぐ歴史コミュニケーション」日本コミュニケーション学会(CAJ)第40回記念大会、2010年6月20日、明治大学
- ③ Kazuko Miyashita, "America as Understood through Foster's Songs in Foreign Cultures～Foster's Music as Japanese Cultural Heritage" The First Symposium on Stephen Foster, April 24, 2010, University of Pittsburgh (USA)
- ④ 宮下和子「アメリカ音楽のコミュニケーション力」ヴァナキュラー研究会 2010

年3月10日、立命館大学(京都)

- ⑤ 宮下和子「音楽を使った英語教育及び異文化コミュニケーション教育」JACET九州・沖縄支部第23回研究大会、2009年6月20日、琉球大学 [那覇市]

[図書] (計3件)

- ① 宮下和子、鹿屋体育大学外国語教育センター。『音楽で異文化コミュニケーション1』、2011年3月24日、49ページ。
- ② 宮下和子、鹿屋体育大学外国語教育センター。『音楽で異文化コミュニケーション2～歌い継ぐアメリカ America Keeps Singing』、2011年3月24日、51ページ。
- ③ 宮下和子、鹿屋体育大学外国語教育センター。『音楽で異文化コミュニケーション』(3訂版)、2010年3月24日、49ページ。

[その他]

埼玉県和光市立和光小学校は2009年4月、国内初のカテゴリー「音楽及び英語教師」を設けた。採用された立石加奈子氏は、大阪教育大学在学中の2002年4月、報告者にフォスターに関する卒業論文の指導を依頼してきた。以来、意見交換を継続しているが、2010年のフォスターシンポジウムでのプレゼンでも、同氏のコメントも引用し、日本の音楽教育の現状も紹介した。

また、伊豆市在住でフォスター歌を持ち歌にしているミュージシャン對中淳一氏は、インターネットで報告者のフォスター論文にヒットし、2007年、報告者にコンタクトしてきた一人で、フォスターを歌い続けることの意義について意見交換を継続している。

<http://www.caj.1971.com/kyushu/>